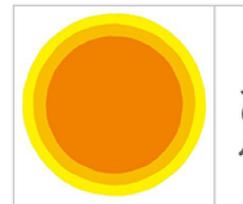


Press Release



県内のインフルエンザの発生が流行注意報レベル基準値を超えました

本県における2024年第50週(2024年12月9日～15日)の感染症発生動向調査で、インフルエンザの定点あたり報告数が958人(定点あたり16.52)となり、インフルエンザ流行注意報レベル基準値である定点あたり報告数「10」を超えました。

インフルエンザは子どもや高齢者では重症化することがありますので、注意が必要です。

また、今後大きな流行が予想されますので、手洗いや咳エチケット等の感染予防対策の徹底をお願いします。

1. 県内のインフルエンザ発生状況

令和6年第50週(12月9日～15日)の週で、県内の定点医療機関からのインフルエンザ患者報告数が958人(定点当たり16.52)となり、流行注意報レベル基準値の「10」を超えました。

	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週
報告数	116	159	250	433	958
定点当たり患者報告数	2.00	2.74	4.31	7.47	16.52

定点医療機関とは、感染症の発生状況を知るため、一定の基準に従って県が各地区に定めた医療機関のことです。

県内のインフルエンザの定点医療機関数は58であり、定点当たり患者報告数は、全患者報告数を定点医療機関数(58)で割った値となります。

発生状況の詳細は別紙(1)を参照ください。

流行注意報レベル基準値とは

国立感染症情報センターが過去の患者発生状況を基に設けたもの。

- 流行シーズン入り：定点あたり報告数「1」
- 流行注意報レベル基準値：定点あたり報告数「10」(今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと等を示す。)
- 流行警報レベル開始基準値：定点あたり報告数「30」(大きな流行の発生または継続しつづることが疑われることを示す。)

流行警報レベル終息基準値は、県全体の定点あたり報告数が「10」未満になるまで。

2. 昨シーズン(2023/2024)の流行状況

- 流行シーズン入り：令和4年第52週（12月26日～1月1日）※2022/2023シーズンから継続
- 流行注意報レベル：令和5年第38週（9月18日～9月24日）
- 流行警報レベル：令和5年第47週（11月20日～11月26日）

3.インフルエンザの感染予防対策等

- インフルエンザの予防には、新型コロナウイルス感染症の感染対策と同様、外出後の手洗いや手指消毒、人混みを避けることが効果的です。
- マスクの着用など咳エチケット、こまめな換気も併せて行なっていただくよう重ねてお願いします。
- 十分な睡眠やバランスのとれた食事など日頃から体の抵抗力を高めることも大切です。
- インフルエンザの予防接種には、発症する可能性を低くする効果と、発症した場合の重症化を予防する効果が報告されています。免疫がつくまでに約2週間かかるため、早めの接種をお願いします。

その他感染対策の詳細は、別紙(2)をご覧ください。

関連資料

- [\(別紙1\)県内のインフルエンザ発生状況 \(PDF : 116KB\)](#)
- [\(別紙2\)インフルエンザとは? \(PDF : 305KB\)](#)

お問い合わせ

所属：薬務感染症対策課 担当者名：川平、日高、今村、山下
電話：0985-44-2620
ファクス：0985-26-7336
メールアドレス：yakumukasensho@pref.miyazaki.lg.jp

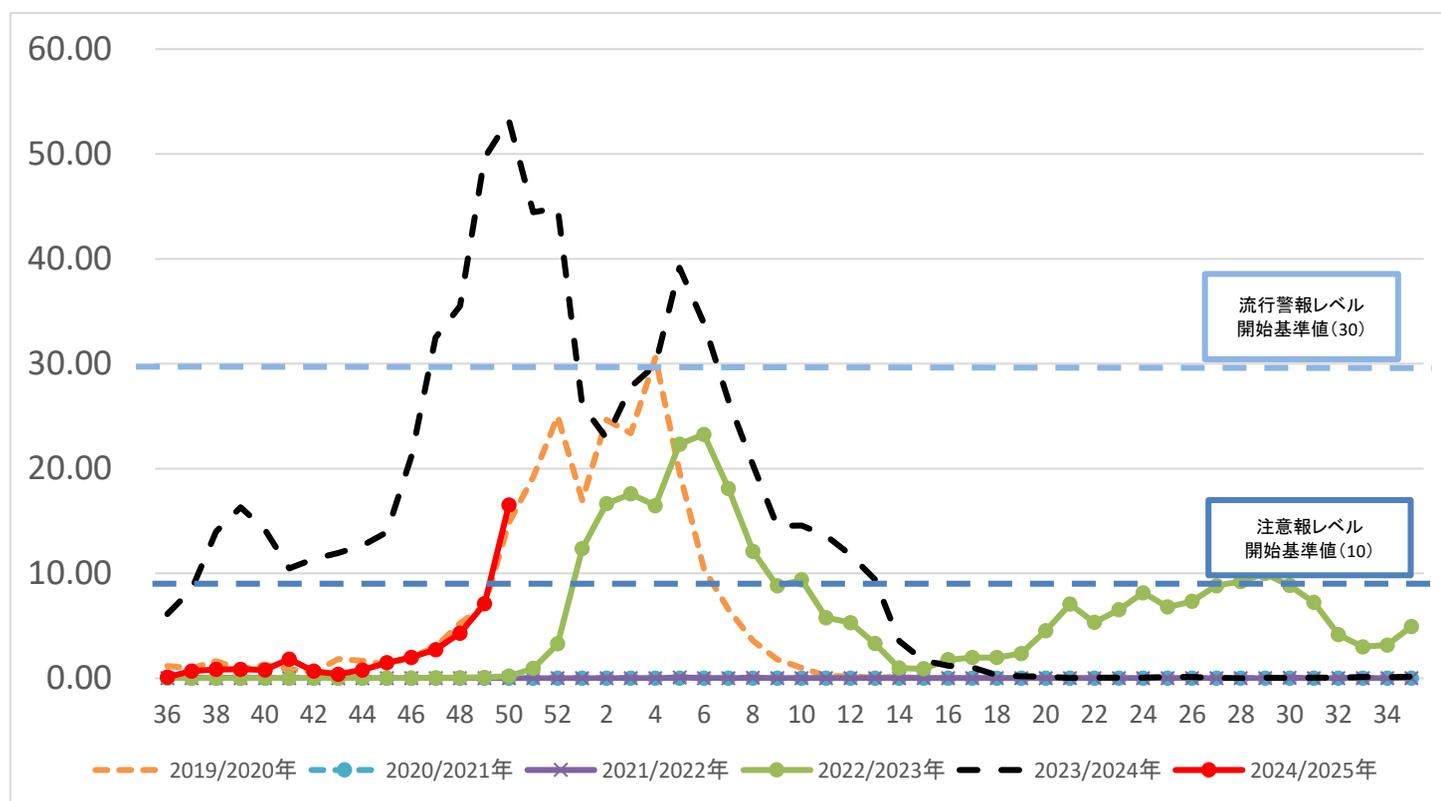
法人番号：4000020450006
〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号

県内のインフルエンザ発生状況

(1) 2024年第50週(2024年12月9日～2024年12月15日)の発生状況

地区名(保健所)	宮崎県	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
報告数	958	337	119	166	55	31	122	13	68	47
定点あたり	16.52	21.06	11.90	23.71	11.00	7.75	20.33	6.50	11.33	23.50

(2) 県内におけるインフルエンザの定点あたり報告数の推移



(3) 過去の全国と宮崎県の発生状況

年	全国(累計報告数)	宮崎県(累計報告数)
令和元年	1,876,083	23,545
令和2年	563,488	8,219
令和3年	1,065	3
令和4年	25,539	291
令和5年	2,311,266	39,771
令和6年	1,287,307	18,803

※令和6年は、第49週(1月1日～12月8日)までの報告数

インフルエンザとは？

1. インフルエンザとは？

- ・例年12月から3月頃を中心に発生します。
- ・子どもや高齢者では脳症や肺炎を併発する等重症化することがあるので注意が必要です。

2. どんなところで、何から感染するの？

○感染経路：飛沫感染、接触感染

感染した人の咳やくしゃみにより、飛沫とともに放出されたインフルエンザウイルスが鼻やのどの粘膜に付着したり、吸い込まれることによって感染します。また、インフルエンザウイルスが付着した物（ドアノブ等）を触れた手で鼻や目などに触れることによっても感染します。



3. 症状は？

○潜伏期間：1～3日

○症状：38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、鼻汁、咳など
発症後2～5日間はウイルスが排泄されるといわれています。

4. 感染を予防するためには

○手洗い

- ・石けんを使って丁寧にこすり洗いをし、水で洗い流します。
- ・手洗い後はペーパータオル等を使って手を拭きます。
タオルを使用する場合は、毎回タオルを交換するか、清潔な個人用タオルを使用します。
- ・水道の蛇口は、手と一緒に洗うかペーパータオルを利用して締めると、手の再汚染を防げます。



○咳エチケット

- ・咳やくしゃみが出る時はマスクを着用しましょう。
- ・咳やくしゃみをする時は他の人から顔をそらせてティッシュ等で口と鼻を覆いましょう。
- ・鼻汁や痰を含んだティッシュは、すぐに蓋のついたごみ箱や袋に捨て、その後は手を洗いましょう。

○適度な湿度の保持

- ・乾燥しやすい室内では、湿度を50～60%に保ちましょう。

○流行前のワクチン接種

- ・インフルエンザワクチンは重症化防止に有効といわれています。

○その他

- ・体の抵抗力を高めるために、日頃から十分な休養と栄養摂取を心がけましょう。
- ・外出時は、人混みを避けましょう。

5. インフルエンザにかかったら

- ・マスクを着用して医療機関を受診しましょう。
- ・受診の際は、事前に医療機関に相談し、受診方法を確認しましょう。
- ・発症から48時間以内であれば、抗インフルエンザウイルス薬が有効とされています。治療については主治医に相談しましょう。
- ・人混みへの外出を控え、無理をして学校や職場等に行かないようにしましょう。